



海外日本人学校での体験を語る

語り手 齋藤有紀雄 (昭和 50 年卒・森中前校長)

聞き手 黒川 鈴谷 (昭和 35 年卒)

森中前校長の齋藤有紀雄さんは、最初はインドネシアのジャカルタで日本人学校で教頭として、二度めはワシントンの補習授業校で校長として、二度にわたって海外での学校勤務を経験された方です。

今年の 4 月に帰国された齋藤さんには、現在磯子支部の副支部長をお願いしていますが、今回この「磯子支部だより」最終号で海外での貴重な体験を語って頂きました。

普通にはなかなか経験できないことなので内容的におもしろいと同時に、今後海外の学校に勤務したい希望をお持ちの若い会員の方には参考になるのではと思いこの記事を載せた次第です。

黒川 本日はお忙しい所をお出で頂きまして、ありがとうございます。海外の学校で勤務した経験は全くない人がほとんどで、あっても一度というのが普通と思うのですが齋藤さんは二度も経験されました。そこには齋藤さんの並々ならぬ思い入れがあると思うのですが、その辺りから伺いましょうか。何か原因とか動機のようなものがあるのですか。

齋藤 昔、中学 3 年の担任の時にロンドンの日本人学校から、私のクラスに転入してきた生徒がいました。中 3 ですから高校受験を控えているのです。当時はいわゆる神奈川方式の時代で、中 2、中 3 の成績と中 2 の 3 学期にやるア・テストの成績、それと高校入試の成績の三つによって合否が決まりました。ところがこの生徒は中 3 になって転入してきたので、アテストは受けていませんでした。

黒川 それはちょっと大変ですね。それで中 2 の成績は分かったのですか。

齋藤 中 2 の時の成績をロンドンの日本人学校に問い合わせたのですが、「当校では絶対評価を実施しているので、相対評価の資料はない。」という回答で吃驚し、困ってしまいました。

黒川 あの頃は日本では相対評価が当然のように行われていましたが、海外の学校は別だったのですかね。それでその生徒の高校受験はどうなったのですか。

齋藤 幸い優秀な生徒でしたから、中 3 での成績と高校入試の結果だけで合格することが出来ました。何とか危機を乗り切ったのですが私はちょっと割り切れなさを感じ、海外の学校に対する関心が高まりました。

黒川 なるほど海外の学校に関心を持ち始めた理由は良く分かりました。それで最初に赴任されたのはジャカルタの日本人学校ですね。何歳の時でしたか。

齋藤 46歳の時に教頭として3年間、文部省より派遣されました。1998年(平成10)のことです。

黒川 通常の異動を希望する時には学校長に申し出ますね。でも国外の日本人学校に異動を希望するときにはどうすればよいのですか。

齋藤 現職の時には通常の異動と同じように、まず校長に希望を出します。すると校長から市教委―県教委―文科省というルートで希望が文科省に届きます。文科省が認めれば、年度内には海外の日本人学校の教員として採用する通知が来ます。でもどこに赴任するかは分かりません。赴任先の通知が来るのは翌年12月頃です。

黒川 その赴任先ですが、ヨーロッパが良いとかアメリカにして欲しいとか希望を述べることは出来るのですか。

齋藤 いや、希望は一切述べられません。決められた所に行くと言うことです。私は二度目に海外に行った時にはアメリカでした。皆さん一般的にはアメリカやヨーロッパが良いと言うのですが、必ずしもそうは言えないのですよ。

黒川 それはどうしてですか。私は行くのならヨーロッパが良いと思うけれどなあ。

齋藤 まあ観光ならそれでも良いのですが、海外の学校の教員になるのは観光で行くのと違いますからね。それにヨーロッパやアメリカのような先進国では、生活費がかかるので大変です。アメリカなどは給料と手当では足りないくらいです。その点で、物価の安い国に行けば生活は楽です。

黒川 なるほど、実際経験してみないと分からないものですね。ところで昔聞いた話ですが、赴任する人が既婚者の場合は配偶者も一緒に赴任しなければいけないというのですが、本当ですか。

齋藤 いや、そのきまりは今年から無くなりました。でも以前には確かにそういう決まりがあったので、奥さんが休職したり退職したりしなければなりません。ヨーロッパに赴任した某女性校長の場合は、旦那さんが退職して一緒に行ったそうです。そういういろいろな問題があってこの決まりが廃止されたのでしょね。



黒川 そろそろ齋藤さんが赴任したジャカルタの日本人学校のことを伺いましょうか。インドネシアでは新学期は9月ですか。

齋藤 いや、インドネシアは7月です。日本人学校は日本と同じに4月が新学期です。

黒川 齋藤さんに書いてもらったメモの中に「文科省や赴任先の学校から『赴任の手引き』を送って貰って、生活用品・教材・生活資金などの準備

をした。」とありますが、この「生活資金」というのは何ですか。

齋藤 赴任と同時に給料や手当が支給される訳ではないので、まずそれが支給されるまでの生活費が必要です。一番大きいのが住むためのお金、つまり住居費です。

黒川 学校付属の住宅などは無いのですか。

齋藤 そんなものはありません。もちろん学校の方で適当な家とかアパートを見つけてくれるので自分で探す手間は省けるのですが、賃貸の契約は自分が現地で結ばなければなりません。当然契約のお金を払いますから、お金は最初から必要です。

黒川 支給される給料を当てにして、お金を持たずに赴任する訳にもいかないことは分かりました。ではジャカルタ日本人学校の概要をお話いただけますでしょうか。

齋藤 児童・生徒数は私の赴任当時は 1013 名在籍していました。授業内容は日本と同じで、それにプラスして「インドネシア語」と「インドネシア理解」の時間があります。その他に現地校との交流があります。また入学式・卒業式・運動会など日本の学校と同じような行事もあります。

黒川 「インドネシア理解」とはどのような内容なのですか。学年によっても違うと思いますが。

齋藤 インドネシアの自然・文化・歴史・地理・伝統的な遊びなどを、学年に応じて総合的に学びます。

黒川 聞くところによると、齋藤さんがジャカルタに着任された直後にインドネシアに政変が起って大変だったそうですね。

齋藤 4月に着任してから1カ月たった5月4日に、インドネシア各地で公共料金値上げが原因で市民がデモを行い、それをきっかけに混乱が起こったのです。

黒川 何だか現在の香港に似ていますね。

齋藤 いやもっと大変でした。市民が暴徒化し商店の略奪が行われ、鎮圧のために戦車が出動しました。子ども達も家に帰れなくて学校に泊まり込みました。

黒川 『日録 20 世紀』という講談社発行の本を見ると、「5月16日、政府は混乱続くインドネシアからの邦人退去のため、航空会社に増便を要請」とあります。とにかく赴任早々大変でしたね。

齋藤 結局、学校は休校になり、私も5月19日に最後の飛行機の一つか二つ前に帰国しました。1/3 くらいの生徒は休校になる前に帰国していました。この後で大変だったのは児童・生徒の安否を確認する作業です。もちろん生徒たち一人一人の日本での住所は分かっているのですが、日本に帰国しないで近くのシンガポールに一時避難したという場合もあり、確認するの10日ほどかかりました。



辞任を表明するスハルト大統領

黒川 そのような非常事態の場合、邦人の安否を確認するのは大使館の仕事ではないのですか。大使館はやってくれなかったのですか。

齋藤 現地にそのまま留まっている人の安否の確認は勿論大使館の仕事なのですが、現地以外の場所に避難した人の確認は大使館の仕事ではなく、我々がやることなのです。この確認作業をやったので、当時のジャカルタの日本人学校の在籍児童生徒数 1013 名という細かい数字を今でも覚えています。

黒川 先ほどの講談社の本の記述によると「5月21日、インドネシア・スハルト大統領辞任」とあります。ここでやっと政変が終息したのですね。この後3年近くジャカルタで勤務されたのですが、紙数の関係もありますから少し端折って、ワシントンでのお話を聞くことにしましょうか。

最初にごく素朴な質問をしますが、齋藤さんが赴任された先の「ワシントン補習授業校」という名前がよく分かりません。「日本人学校」とどう違うのですか。

齋藤 「日本人学校」は授業の内容も時間数も、学習指導要領に基づいて教育をします。だから日本人学校で履修したことは、帰国しても日本の学校で履修したことと同様に認められます。ところが「補習授業校」は児童・生徒が海外滞在中に日本の事を忘れない程度に教育すると言うことで、目的が全く違います。日本人学校は平日に毎日授業があるのに、補習授業校の授業は土曜日1日しかありません。

黒川 いや、二つの学校の間、そういう違いがあるとは全く知りませんでした。言われてみれば確かに名前が「補習授業」校ですからね。ところでアメリカ合衆国の国内には、日本人学校は何校くらいあるのですか。



ワシントンのホワイトハウス

齋藤 アメリカ国内にある日本人学校は、ニューヨークとニュージャージー、それとシカゴの三つだけです。

黒川 あれだけ広いアメリカで、しかも在留邦人が多いにもかかわらずその三つだけとは意外ですね。何故なのでしょう。

齋藤 日本人学校のある三つの町には、短期間に帰国する日本人がある程度居るので、そういう人の子女を対象に日本人学校があるのです。しかしワシントンなどは比較的長期間滞在する人、例えば新聞・放送の特派員や支局長或いは民間では企業のかなり上の役職の人たちが多く、それらの人の子女は補習学校に通います。先程の三つの町にも補習学校があり、日本人学校に通う子よりも補習学校に通う子の方が多いのです。

黒川 でも補習学校は週に1日でしょう。残りの日はどうするのですか。

齋藤 平日は現地校、つまり地元のアメリカの学校に通います。アメリカは高校までは公立校は授業料が無料ですから、費用はかかりません。現地校の方が英語で授業を受けるので英語は上達しますしね。

黒川 なるほど、だから親としても現地校に通わせるとともに、子どもが日本の事を忘れない程度に補習校に週1回通わせると言うことなのですね。でもその子たちが将来ずっとアメリカで暮らす訳でなければ、いずれ受験の時期を迎えるでしょう。その為には日本人学校に通った方が良いのではありませんか。

齋藤 近くに日本人学校があれば通うでしょう。でも近くに日本人学校が無い場合、補習校に通います。また補習校の6年生の数は減ります。

黒川 減るといえるのはどういう意味でしょう。補習校に来ないでどうするのですか。

齋藤 塾へ行くのです。

黒川 え一つ、アメリカにも塾があるのですか。

齋藤 勿論ありますよ。それだけの数の日本人がいて、子どももいるのですからね。小六か中三で受験を目指す子は、補習学校をやめることもあります。土曜日の同じ時間に受験科目をやった方が良く考えるのでしょう。

黒川 その塾の先生は誰がやるのですか。

齋藤 塾の経営者が日本から連れてくる場合もあるし、現地で雇う場合もあります。

黒川 学校の名前からいろいろお聞きしましたが、齋藤さんの赴任された補習校のことを、お持ち頂いた写真を見ながら伺いましょうか。この写真は校舎ですか。

齋藤 そうです。校舎は三か所に分かれています、その内の一つです。
黒川 建物の上の部分に A CATHOLIC TRADITION と書いてあるようですが、宗教的な施設なのですか。

齋藤 そうです。カトリック教会の附属学校の校舎です。ここだけでなく三つの校舎は全てカトリックの学校の教室を借りています。教会は校舎の向かいにありますから、この写真には写っていません。

黒川 補習校は土曜日だけやるのですね。

齋藤 そうです。平日はそのミッションスクールが教室を使うので、空いているのは土・日です。でも日曜日は教会での集まりがあり、駐車場も一杯になるのでその日は避けてほしいとの学校の希望です。ですから空いている土曜日にやるのです。



校舎を借りていたミッションスクール

黒川 これは「運動会」の写真ですね。アメリカの学校では日本のようには体育をやっていないとも聞くのですが、この学校にはグラウンドはあるのですか。

齋藤 この学校のグラウンドは小さいですから、ここではやりません。小さいと言ってもサッカーコートの一つ二つは取れますが。

黒川 それくらいあれば、日本ではとても広い運動場ですよ。アメリカはやっぱり広いんですね。



ワシントン補習学校の運動会

齋藤 確かにアメリカは土地が広いです。地方の空港でも主要な所は地平線まで空港の敷地です。

黒川 うーん、それでは日本の基地問題などはアメリカ人には分からないでしょうね。

齋藤 運動会には 3,000 人くらい集まりますから高校のメイングラウンドを借ります。

黒川 えっ、そんなに集まるのですか。

齋藤 三つの校舎に通う児童・生徒が 700 人、両親が来れば 700 人の 2 倍で 1,400 人。合計でそれだけで 2 千人を超えます。日本の運動会は地元の人にも珍しいらしく見物の人もあるんで、かなり広いグラウンドが必要です。でも今の話はワシントンとかジャカルタとか首都にある学校だから人が集まるので、地方にある学校ではそれほどでもありません。

黒川 いや、なかなか盛大なものですね。ところで私が昔いた学校で、工事の為に 2 年近く校庭が使えず、近くの中学のグラウンドを借りて運動会をやったのですが、必要な用具を運び込むのが大変でした。その点はどうなのですか。

齋藤 確かにそれは大変です。ですから荷物運びは日通やヤマトの支店に協力して貰っています。授業では跳び箱など使わないけれど、運動会の障害物競走に使いますし、綱引きの綱などもあります。それら一年に一度しか使わないものは、日通の倉庫にコンテナ二つ分くらい預けています。

黒川 成るほどねえ、いろいろ聞くと「成るほどねえ」ということばかりですね。次の写真は百人一首ですね。これをやっている人は補習学校の先生なのですか。

齋藤 左の人は先生だったのですが、一年で辞めてしまいました。右の人がたまたま日本から来てこういう行事を見せてくれたのです。

黒川 補習校の先生に就いてお聞きしますが、現地で採用された先生の他に日本から赴任する人はいるのですか。



百人一首を見る子どもたち

齋藤 補習校の場合、日本から行くのは校長と教頭(副校長)だけです。他の先生は現地採用の人です。学校の規模によっては教頭がいなくて校長だけのこともありますし、さらに規模が小さい場合には校長も教頭もない場合もあります。

黒川 その現地採用ですが、採用を決定するのは誰なのですか。

齋藤 面接などは一応我々(校長や教頭)がしますが、決定するのは運営委員会です。海外の学校は日本人学校も補習校も、現地に在留する邦人の希望によりその人達がお金を出して造っているものです。だからその人達を代表する運営委員会に決定権があるのです。

黒川 それでは、学級担任をしているような若い頃に海外に赴任するのは、補習校でなく日本人学校なのですね。

齋藤 そうですね。日本人学校では、先生の7割を国が派遣します。だが後の3割は運営委員会が探して採用します。

黒川 その3割は現地にいる人を採用するのですか。

齋藤 現地で採用する場合もあるし、日本で募集する場合もあります。ただ日本から採用する場合には、往復の旅費と滞在費を支給しますから、運営委員会が経済的にゆとりがないと出来ません。

黒川 この二枚の写真は何をしているのですか。授業参観のようでもあり研究授業のようでもあります。

齋藤 それは研究授業の写真です。

黒川 この研究授業をしている先生も、現地採用ですか。

齋藤 全員現地採用ですから、当然この人もそうです。

黒川 現地採用の先生は教員免許は持っているのですか。また日本での教職経験はあるのですか。

齋藤 教員免許を持っている人は1/3です。教職経験のない人もいます。しかし日本では教職に就く資格のないそれらの人たちを含めて、補習校の先生たちは実に優秀です。何故かと言うと、先生たちは日本でのように免許状とか公務員の身分とかに守られていません。しかも力のない先生には保護者の目が厳しく、日本以上にクレームが付きます。なにしろ保護者達がお金を出して学校を創っているのですから。その中で勤務している先生たちは、免許や経験の有無に関係なく努力して実力を付けているのです。

黒川 補習学校の授業が土曜日だけと聞いた時、初め私は「では土曜以外はゆったりで



ワシントン補習授業校での研究授業

きるのかな」と思ったのですが、どうもそうではなさそうですね。

齋藤 いや、実は私も着任するまではそんなふうにも思ったのですが、大変な間違いでした。月曜日は授業をやる土曜の代休ですが、火~金は出勤です。

黒川 出勤と言っても教室を借りている学校は授業をやっているから入れないでしょう。

齋藤 補習校の事務所が別にあるのです。そこに出勤し、火曜日は授業のあった土曜日に関する事務的なもの、出席簿や使用した教材などを全部回収し整理する。水・木で次の授業に必要なものを準備する。金曜は翌日の授業の準備をし、土曜日に必要なものを運ぶので、車に積み込んでから帰ります。



黒川 なるほど、いちいち運ぶのだから大変ですね。 休み時間を使って、上級生による紙芝居
齋藤 教室を借りている学校の裏に倉庫を二つ造っているのですが、それでもスペースが足りなくて、持っていったり持ってきたりするのです。

黒川 齋藤さんから頂いた補習校のことを記した印刷物に「片道 2 時間以上かけて通学する児童もまれではない」とありますが、交通手段は何ですか。

齋藤 自家用車です。現地では高校生が車の運転免許を持てるので、過去に 1 名だけ自分の車で通学するのを許可したことがあります。でも原則は父母の運転する車での送迎です。

黒川 バスとか電車とか、公共交通機関は利用できないのですか。

齋藤 アメリカではバスに乗るのは、自分の車を持たない人或いは持てない人です。ですから普通の人々がバスに乗ることはまずありません。もし乗ったら「えーつ、バスに乗ったの」と言われます。



新春祭りへの参加。右端の指揮者は齋藤校長。

黒川 いやあ、分からないことが多いので次から次にお聞きしているのですが、かんじんの「補習校での教育の内容」についてまだ伺っていないので、それに就いてお聞きしましょうか。土曜日 1 日だけで、どんな事を教えるのですか。

齋藤 子ども達の中には 2 時間以上かけて通学する子もいるので、始業は 10 時からです。午前 2 時限、午後 4 時限の活動をし、終業は 16 時頃です。

黒川 その 1 日 6 時限の中で、どんなことを学習するのですか。

齋藤 基本的には国語と算数(数学)を学習します。この 2 教科以外にも小学校低学年は音楽や体育などの合科、高学年は理科と社会、中学部は社会を学習します。

黒川 いずれにしても週に 1 日の授業では限界があり大変だと思いますが、現地の父母たちが一番望んでいることは何なのですか。

齋藤 子どもたちはふだんは現地校に通っていますから、英語については上達します。その一方で国語については、日常生活の中で家庭内以外に国語的環境が無いのでどうしても日本国内の同年齢の子どもに比べて、国語的能力に問題が出てきます。

親が一番心配するのはそれですね。だから1日6時限全部国語の学習という補習校もあります。

黒川 齋藤さんが校長だった補習校では、1日6時限をどのように使ったのですか。

齋藤 私の所では全部国語には出来ないので国語を2時限、算数を2時限やり、あと中学部は社会とかやりました。でも小学部の低学年はどうしても国語の時間が足りないので国語を3時間やりました。



楽しいお弁当の時間

黒川 国語を3時間やっても、週に1日で3時間だから大変ですね。

齋藤 普通は6時間かけて1週間でやる単元を3時間の1日でどうやるか、教える先生は大変です。

黒川 補習校でなく日本人学校だったら、そういう苦労はないわけですね。

齋藤 そうです。日本の学校と同じですから。

黒川 そういう補習校の実態と言うのは、今回行って初めて分かったのですね。

齋藤 そうです。本当に分かったのは現地に行って体験してからですね。

黒川 齋藤さんがワシントン補習校に赴任したのは、退職した後なのですね。退職後だからもう教育委員会は関係ないとすると、どんな手続きで赴任したりですか。

齋藤 神奈川県は現職では海外に二度派遣されることは無いので、私は退職してから海外にもう一度行くことを希望したのです。最終的には文科省に希望を出すのですが、直接的には「海外子女教育研究会」という全国組織があり、ここに申し込みました。退職後ですから教委には関係ありませんが、委員会には推薦書を書いてもらいました。

黒川 なるほど現職の時と退職後とでは、希望を出すルートも違うのですね。しかしこういうことはなかなか現場の一般の教員には分かりにくいと思うのですが、将来海外の学校に赴任したいという希望をもっている若い人は、必要な情報を手に入れるためにはどうしたら良いのでしょうか。

齋藤 神奈川県国際教育研究協議会(zenkaiken.jp/kanagawaを検索)という組織があり、定期的に研究会を行っています。その研究会の通知は各学校に配られていますから、興味のある人はおいで下さい。文科省からは毎年5月頃に、海外での勤務の通知が各学校に来ます。海外の子女教育に関心があり、理想と情熱をもって海外の日本人学校に行ってみようとする人はぜひ参加して下さい。今、7万人の子ども達が海外で勉強しています。

黒川 今日は長時間にわたって、貴重な体験をお話し頂きました。もっと伺いたいこともあるのですが、紙数の関係でここまでといたします。ありがとうございました。



宇宙飛行士星出さん(写真左端)が学校に来て、話をしてくれた。

(H.26.10.29)